

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成30年度第3回近江八幡市総合教育会議																
開催日時	平成30年11月12日（月）15：00 ～ 16：30																
開催場所	市役所3階 市長応接室																
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市長 小西理（◎） 教育長 日岡昇 教育長職務代理者 高木敏弘 教育委員会委員 八耳哲也 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◇職務により出席したもの</p> <table border="0"> <tr> <td>総合政策部長 江南仁一郎</td> <td>政策推進課長 太田明文</td> </tr> <tr> <td>政策推進課副主幹 夜野友昭</td> <td>政策推進課主事 東諭史</td> </tr> <tr> <td>教育部長 小林一代</td> <td>教育部次長 楠本茂樹</td> </tr> <tr> <td>生涯学習課長 奈良俊哉</td> <td>教育総務課長 秋山直人</td> </tr> <tr> <td>教育総務課課長補佐 山元和夫</td> <td>教育総務課副主幹 武田善雄</td> </tr> <tr> <td>学校教育課参事 富江康子</td> <td>近江八幡市立図書館館長 奥村恭代</td> </tr> <tr> <td>近江八幡市立図書館副主幹 澤千央</td> <td></td> </tr> </table> <p>◇傍聴者 1名</p>			総合政策部長 江南仁一郎	政策推進課長 太田明文	政策推進課副主幹 夜野友昭	政策推進課主事 東諭史	教育部長 小林一代	教育部次長 楠本茂樹	生涯学習課長 奈良俊哉	教育総務課長 秋山直人	教育総務課課長補佐 山元和夫	教育総務課副主幹 武田善雄	学校教育課参事 富江康子	近江八幡市立図書館館長 奥村恭代	近江八幡市立図書館副主幹 澤千央	
総合政策部長 江南仁一郎	政策推進課長 太田明文																
政策推進課副主幹 夜野友昭	政策推進課主事 東諭史																
教育部長 小林一代	教育部次長 楠本茂樹																
生涯学習課長 奈良俊哉	教育総務課長 秋山直人																
教育総務課課長補佐 山元和夫	教育総務課副主幹 武田善雄																
学校教育課参事 富江康子	近江八幡市立図書館館長 奥村恭代																
近江八幡市立図書館副主幹 澤千央																	
次回開催予定日	平成31年2月13日（水）																
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野、東 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp																
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため														
内容	別紙のとおり																

担当課⇒総務課

事務局	1. 開会
市長	2. あいさつ
教育委員会事務局	3. 議題 (1) 教職員の働き方改革について <ul style="list-style-type: none"> ● 資料1に基づき、現在までの取組についての報告及び今後の取組について、説明する。 ● 近江八幡市教職員働き方改革推進委員会を設置し、教職員の働き方における現状を把握し、課題の洗い出し及び課題に対する具体的な取組を提起・推進している。 ● 今月行っている働き方改革推進強化月間では、5つの取組を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ① 定時退勤日の励行（各校の定時退勤日を全校に周知） ② 時間外労働の目標を月 45 時間以上勤務した教職員数として設定 ③ 職場の整理整頓 ④ 会議の効率化（資料の事前配布等事前準備の徹底） ⑤ 10月発行の学校だよりに推進強化月間について掲載及び協力依頼 ● 資料2に基づき、今年度の時間外労働が 80 時間を超過した教員総数の月別推移について、説明する。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ● まず、1点だけ資料の表現について訂正をお願いしたい。資料1に記載の「ボランティアの積極的活用」という表現は違うと考える。ボランティアは自発的な行動に基づいており、活用されるものではない。「積極的にボランティアの協力を得る」など表現は今後考えてほしい。 ● 教職員の働き方改革については昨今よく言われているが、事務局の説明等を踏まえて、この件についてどのように考えられているのかを各委員から意見をいただきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ● 私自身が先生として働いていたときに、働き方改革を意識していたわけではなかった。ただ、今になって考えると 17 時以降の自分の時間を犠牲にして働いていただけかもしれない。 ● 働き方改革は単に勤務時間を減らすことだけを目的にするのではなく、より子どもたちに寄り添う時間を確保するために必要だと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場の状況は今と昔では変化しており、働き方改革を進めるためには、

- 先生だけでなく、ボランティアや地域の方々の協力が必要である。
- 委員
- 教職員は先生でもあり、家庭人でもあるため、仕事だけしていれば良いというわけではない。働き方改革を進めるためにも、出来るだけいろんな視点からの意見をいただき、働き方を見直す機会とすべきである。
 - 私が仕事をしていた時は、残業で 22 時、23 時まで仕事をしていたこともあったが、「子どもが好き」という気持ちや子どもが育つ実感などもあり、楽しく仕事をしていた。また、残業をしてやっていることが子どもたちのためになると思っていたので、苦ではなかった。
 - だが、教育委員会職員として勤務した時に驚いたのは、行政職員の中には他の人と業務量は同じなのに、効率よく仕事を進め、毎日定時で帰宅する職員がいることだ。現場においても、業務量は多くなっているのに効率性を追及することは大切だが、各々の仕事の質は落とせない。むしろ、仕事の質を上げることが働き方改革の目的だと思う。そのためにも、各職場でグループを作り、皆が一緒に情熱をもって、仕事に取り組むことが大切であると思う。
- 委員
- 民間の立場から意見を申し上げると、働き方改革は出来ることから進めるべきである。そのためには、今常識となっていることを見直してみることも必要である。
 - 先生の中で教育を仕事としてわりきっている人がいるなら、もっと情熱を持って子どもと向き合う時間を作るべきだ。
 - 教職員の働き方改革の本来の目的として、子どもとどれだけ質的に向き合う時間が増えたかということも重要だと思う。
 - 「量」だけでなく、「質」にも重点をおくために、働き方改革の指針を教育委員会が示すべきである。先生だけでなく、子どもたちにとっても良くなる改革であるべきだ。超過勤務時間の削減という「量」の指標だけでは危険だと感じる。
- 委員
- 小1すこやかサポーターも経験したが、教職員の方々は本当にさまざまな取組をされており、日々大変だと感じている。
 - 昨年度にあった教職員の働き方改革についての保護者説明会で心配に思ったことは、中学生の部活動についてである。土日のうち、どちらか一方を休日にする、部活動を生きがいにしている子どもにとっては、物足りなくなるかもしれない。
 - 教職員の休みの確保と子どもたちの部活動を両立する取組として、部活動指導員を配置するのは良いことだと思う。専門的知識のある指導員の確保なども難しいだろうが、そのような取組がより進めばよいと思う。

- | | |
|-------|---|
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 先生の情熱や仕事の効率性、グループを作って仕事を進めるなどのキーワードが出た。それらについて、各委員はどのようにお考えか意見をいただきたい。 |
| 教 育 長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達の学力をつけることや人間性の向上などが先生の仕事であるとする。これらを行うためには、先生が「組織」として動くことが出来るかが大切である。例えば、部活動に熱心な先生へ業務量が偏っていないかということは心配である。 ● 講師も含め、経験の浅い先生も多いことから、学校を運営するという考えのもと、組織として学校を運営する方針が大切である。そのためには、各学校の管理職が運営方針に沿ったかたちでリーダーシップを発揮することが重要である。 |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 情熱をもって仕事を続けるために、各先生のサポートが必要である。担任1人だけで、各クラスの子ども達に対応するのは大変なので、グループを作り、対応することが大切だ。1人で何もかもを抱え込むことがないように課題などを共有し、対応すべきである。 |
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 先生の中には独自の仕事のやり方をもつ方も多いと聞く。グループで対応するという考え方とは相反する点もあると思うが、そのことについて考えを伺いたい。 |
| 委 員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校ももちろん組織として運営するものだが、組織には、「おとしあな」があると考えている。
 「お」は、(特定の人に) おまかせしよう、誰かがやってくれるだろうという考えのこと。
 「と」は、当面なんとかかなるだろうと問題を先送りにする事。
 「し」は、しんどいのは仕事出来る人だけという特定の人に業務が集中している状態のこと。
 「あ」は、あなただったらできるとおだててやってもらうこと。
 「な」は、なんとかかなると真剣に取り組まないこと。 ● 担任になると、自分のクラスのことだけで頭がいっぱいになり、それ以外の学校に関する事には無関心になる懸念もある。組織は大事であり、自分も学校組織の中の一員だという意識を常にもっておくことが必要だ。 |
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 例えば、グループを作り、事務を効率的にする先生と子どもの面倒をみる先生に分けるなど、役割分担をすることについての意見を伺いたい。 |

- | | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 担任をしている先生には、時間があれば、子どもたちと触れ合う先生であってほしい。そうすることで、子どもとの信頼関係が生まれると思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 仕事の効率性に関連した話として、学校関係では会議や提出資料が多く、時間がいくらあっても足りないのではないかと感じる。今年度の教育委員会点検評価をした際にも、同じような事をいろんな組織がそれぞれで行っているという印象である。会議や提出資料の作成などの作業を減らすことを実施すれば、大きく改善できる。 ● これらをリードできるのは教育委員会であり、先生自らが働き方改革を進めるよりも、教育委員会が働き方改革の指標や指針を示すべきだと考える。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 働き方改革の指標には、何が適切と考えるか伺いたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 指標とするには難しいだろうが、管理職がどこまで先生一人ひとりと向き合う時間を持ち、いかにお互いが本音で話せるようになるかが重要だ。その中で、各自の状況を把握し、協力して改善していくというサイクルがあれば、働き方改革につながってくると思う。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 例えば、報告書ゼロ、事務処理ゼロという取組を1校試して、他校とどのような違いが出るかを見るのも良いかもしれない。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● こども園に勤務していた頃、厚生労働省へは長時部、文部科学省へは短時部の報告をするにあたって、同じような内容が多かった。今まで当たり前に取り組んでいることも見直しが出来ると思うので、事務作業の量も指標のひとつだと考える。 ● 管理職の運営管理のあり方も重要な指標だと考える。トラブルなどが起きた時に、どう判断し、どのような対応をしたのかということが大切である。そのために、部下それぞれの特徴を知ること大切である。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 指標の話だが、学校からの報告や、アンケートなどは国や県から依頼されるものも含め、以前に比べ、相当減っている。しかし、本当は必要だろうと考えられるアンケート調査まで実施していない場合もあり、課題を見つけにくくなっていることもある。 ● また、法律で教職員の基礎定数が決まっているため、各学校が自由に使える加配も必要と考えている。今年から加配事務員が3校についており、教職員の事務作業負担は軽減されていると現場からも聞いている。 |

市長

- 多く意見を出していただいた。必要に応じてまた議論したいと思う。
- 本日2つ目の議題について事務局から説明をお願いしたい。

教育委員会事務局

(2) 平成31年度教育委員会における重点課題への取組について

- **資料3**に基づき、平成31年度教育委員会における重点課題への取組について、説明する。
- 平成30年度教育委員会点検評価を実施した結果、平成18年度から本市独自の取組として行っている「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の運動をさらに拡大させていくという結論となった。
- 朝読書、横断幕、オリジナルマスコットにこまるくんの作成、啓発リーフレットの配布などを行い、本取組を周知してきた。しかし、生活習慣の乱れや周知不足、運動（身体能力）の二極化などの増大する課題に学校の取組だけで対応することは限界になってきているため、今後は各家庭や地域との連携をより強化しながら、取組を進めていきたい。
- 本年度は3年毎に行う生活習慣アンケートを実施しており、現在とりまとめ中である。今後生活習慣に係る実態把握と課題抽出を行い、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の各項目での取組に反映する。
- その中で「ど」の読書について、**資料4**、**資料5**に基づき、説明する。
- 本年度実施した近江八幡市立図書館サービス10ヵ年基本計画の中間評価の結果報告及び業務の方向性について説明。特に、総合評価でC評価となった障がい者サービスについては、その充実に向け、福祉に関する職員研修の実施から、始めている。
- 図書館に関わる以下6つの事業検討事項について、説明。
 - ①図書配送サービスの沖島学区への展開
 - ②資料を充実し、市民サービスを向上するための資料費増額
 - ③蔵書等の管理、事務処理の負担軽減のため、ICタグ導入の検討
 - ④館外サービスの拡充
 - ⑤デジタルアーカイブ事業の推進
 - ⑥図書館司書の増員

市長

- ただいまの事務局の説明に関して、各委員からの意見を伺いたい。

委員

- 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」だけでは伝わりにくい。周知も強化する必要があるのもっと伝わりやすいサブタイトルとなるキャッチフレーズが必要なのではないかと思う。
例えば、にこまるくんの着ぐるみを着て先生が周知すれば、生徒の反応や認知度も上がるのではないか。

- | | |
|-----|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本取組を推進するには、やはり学校だけではなく、親も一緒になり家庭でも取り組んでいかないといけない。 ● 例えば、幼稚園で鉄棒の練習なども外部から先生が来て、教えている。その流れの中で、どうすれば逆上がりができるようになるかという情報提供を先生から保護者へすることも、子ども達がさらに運動をするきっかけになると考える。 ● 今の子ども達は遊びの時間を削ってでも、スマートフォンを使うようになっていると聞くので、その時間を減らし、読書の時間を確保することも大切である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 作成時の対応として、キャッチフレーズは全市民が納得するものでないと難しいことがわかった。ただ、この取組を 12 年間続けてこられたのは、素晴らしいことであり、子どもの学力向上につながっていると思う。 ● 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」のマスコットであるにこまるくんを知っている子どもはちゃんという。やはり、子どもには視覚提示することは大切だ。 ● 「ど」の読書に関しては、様々な調査で子どものコミュニケーション能力が低下しているという結果が出ている。特に小学生、中学生では文章で伝えることが苦手な子どもが多いという結果が出ており、その対策のためにも、やはり幼少期からの本の読み聞かせは大切である。 ● 先程説明のあった武佐学区で館外サービスとして実施しているおはなし会の参加者が、前年比 14.4 倍の増加という成果が出ているのは素晴らしいことである。なかなか本に触れる機会の少ない家庭へサービスを提供するには、どのような取組が良いのかを考えながら、ぜひ様々な取組を継続してほしい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● あいさつは、コミュニケーションの根幹をなすものであると思う。しかし、声を出せない子や声に出さなくても顔の表情で表す子もいる。あいさつをできる子になってもらうためには、あいさつすることを押し付けるのではなく、いかにあいさつの大切さを先生が噛み砕いて子ども達に説明するかが大切である。 ● 「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の取組周知は、市の広報なども使い、継続して行うことが重要である。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 周知には、サブタイトル（キャッチフレーズ）も必要だろう。 ● 平成 31 年度重点課題として取組むために、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の取組内容を先生だけでなく、市職員も再度認識する必要がある。 |

市長

- あいさつに関しても、まずは先生や保護者など大人が率先してする姿を見せ、それを継続していかなければならない。

事務局

- 本日の議題は以上となる。
- 多岐にわたる内容であったが有意義な意見交換を行うことができたと思う。最後に、連絡等あればお願いしたい。
- 次回の会議は2月開催を予定しているので、後日日程調整を行いたい。

終了 16時30分